

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

自己評価				学校関係者評価		次年度の課題		
NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	達成状況	達成度		成果○と課題●	意見・要望・評価
1	学校経営	①コミュニケーションを大切にしたい学校経営を推進するとともに、生徒理解を基盤に据えた教育活動を展開する。	○面接週間やHR活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努める。(全学年) ○早期に学校生活に適應できるよう配慮する。(1年) ○より良い学校生活が送れるよう配慮する。(2・3年)	・ 面接週間を活用した二者面談を3回、教科担当者会を2回行った。(1・2年) ・ 各自の進路目標の達成をモチベーションに、概ね良好な学校生活を送ることができた。(3年)	A	○生徒の多くが担任に悩みを打ち明けることができるような信頼関係を構築できている。(2年) ● 年3回実施している面接週間が、生徒理解と問題の未然防止に大きな役割を担っているが、担任の多忙さと放課後の会議等で時間の確保に苦慮している。(1年) ● 担任の業務量が多く、生徒理解に時間が割けない状況がしばしば見られる。(2年)	・ 生徒に対する全体指導と面談などの個別指導の両方が大切である。 ・ 先生方のちょっとした言葉で折れてしまう生徒もいると思われ、言動がすごく大事になってきている。 ・ 先生方のふだんの働き方が気になるところだが、時間を確保して、引き続き丁寧な対応をお願いしたい。	・ 担任の業務量に配慮した上で、引き続き面接週間を確実に設定し、丁寧な面談を行っていく。 ・ 生徒に関する情報の共有に努めながら、組織としての教育活動を心がける。
		②学級減や55分授業、海外研修旅行の実施など、学校変革期における体制を整備し、万全の対応を図る。	○担任会、各課会議、連絡協議会などを通じて、学校変革期における問題点について共有し、解決策を検討する。(教務) ○新教育課程が目指す理数科生徒像を理解させ、それを実現させる生活・学習パターンをしっかりと定着させる。海外研修旅行に向けて、具体的な内容についての研究を進める。(理数) ○海外研修旅行に向けて「総合的な探究の時間」等を活用し、異なる文化・価値観、多様性を理解する能力を養う。(1年)	・ 担任会、各課会議、連絡協議会などを通じて、学校の諸課題や問題についての情報を共有しながら解決策を模索した。すべてが解決されたわけではないが、情報が整理され、解決に向けての検討が行われている。(教務) ・ 7校時授業は1年が週4日、2年が週3日行われているが、普通科よりも授業数が多い週時程に生徒は適應し、生活パターンとして定着した。(理数) ・ 海外研修に関して得られる情報が少なく、研究はあまり進んでいない。(理数) ・ 「総合的な探究の時間」は班ごとに様々なテーマについて、主体的に取り組むことができた。(1年)	B	○各課会議、担任会、連絡協議会、職員会議で全職員と情報を共有することができた。(教務) ○部活動時間が制限される中でも生徒たちは勉強・部活動に精進し、好成績につなげている。(理数) ○「総合的な探究の時間」と「情報」の連携により、全員が課題研究に取り組んだ。プレゼンテーションも計画的に実施し、コミュニケーション能力の向上が図られた。(1年) ● 7校時のぶら下がりが増えたことによって、放課後の会議や生徒の集会等を開くことが難しくなっている。行事の精選を図る一方で、教育課程も絡んでくるため、直ちに解決できる問題ではない。(教務) ● 海外研修については、行程が確定したので、改めて情報収集と研究を進めていく。(理数)	・ 理数科の日課のぶら下がりがや部活動指導の負担はかなりのものがある。平日の部活動だけでも超動は週45時間を超えてしまう。加えて土日は大会がある。働き方改革の道は容易ではないが、先生方と生徒のために進めていただきたい。 ・ 今年から行われている55分授業はプラスになったことがあったのではないかと。キャリア教育の観点から、1年次からの自分の立ち位置を踏まえながら、主体的に将来を考えていく探究的な学びが重要である。 ・ 先生方の負担を考えた時に、図書館の活用という観点は如何か。どのように生徒たちが利用しているのか、活用を考えてみてほしい。	・ 本年度から行われている55分授業の成果と課題を検証し、次期教育課程の編成に生かす。 ・ 次年度の海外研修旅行の実施に向けて、情報収集に努めながら遅滞なく準備を進める。 ・ 海外研修旅行を組み入れた総合的な探究の時間の指導計画を策定する。 ・ 校務支援システム及び校内グループウェアの円滑な運用に努め、各種データの移行や新しい調査書様式等への対応を確実に実行。
		③PTAや後援会、同窓会等、外部団体との連携を密にするとともに、それらの協力も得ながら教職員の「働き方改革」を進める。	○保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的参加を促すなど、保護者との連携を推進する。同窓会事務局との情報共有に努める。(総務) ○学年通信等の発行を通して学校生活の様子や各種情報を提供するとともに、学年PTA・学級懇談会・講演会や研修会などを開催し、保護者との連携を密にする。(3年)	・ PTA広報紙「南高だより」の発行を、今年度から年2回の発行とした。(総務) ・ 創立記念式典等の行事や創立80周年記念事業の準備等、同窓会と連携して進めることができた。(総務) ・ 年間17号（最終3/1発行）の学年通信を発行した。「さくら連絡網」の活用により、これまで以上に確実に保護者のもとへ届けることができた。加えて各種の会合への保護者の参加率も高く、連携を密にすることができた。(3年)	B	○「南高だより」の発行は、順調に進んでいる。(総務) ○「さくら連絡網」の活用により、保護者との連携が密になった。(3年) ● 「南高だより」の内容については、移行期ならではの課題もあり、次年度に向けて検討が必要である。(総務)	・ PTAの参加率が高いということは、学校に魅力があるということの表れである。 ・ 先生方の多忙化に関して、保護者も協力したい気持ちがあるのだろうか、先生方が何をやっているのか分からないのではないかと。保護者側の受け取り方を意識した協力の呼びかけが大事になってくる。忙しさをどうアピールしていくか。	・ 学年通信等の情報が保護者に確実に届くように、学校のホームページやさくら連絡網を活用する。 ・ 保護者からの学校や教職員への電話連絡については、理解と協力を得ながら時間設定等を行い、さくら連絡網の利用をさらに促進していく。 ・ 創立80周年記念事業の準備等に関して、PTAや同窓会との連携をさらに深める。
2	学習指導	④文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的、対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を養成する。	○研究授業や授業見学週間を活用して、指導力の向上を図る。(教務) ○主体的・対話的で深い学びとなる課題研究を通して思考力・判断力を、また発表を通して表現力を養成する。(理数) ○大学入学共通テストを見据え、各教科で文章や情報を正確に読み解く力を育成するとともに、国語・数学の記述力および英語の4技能の育成を意識した授業を実施する。(1・2年)	・ 各教科で校内研究授業を実施した。また、9月に授業見学週間を設定し、教員同士で授業を参観する時間を設けた。(教務) ・ 課題研究においては、見通しの甘さはあったものの常に主体的に取り組んだ。3度の発表会を通して、研究内容を分かりやすく説明する術を少しずつ学んだ。(理数) ・ 授業第一主義の徹底。タブレットを使用し、英語の4技能の向上に努めた。(1年)	B	○研究授業、授業見学週間により、校内研修を行うことができた。それにより、指導法や指導力の向上が期待できる。(教務) ○主体的な研究活動を展開する中で思考力、判断力が磨かれた。(理数) ○朝読書を週2回行う読解力向上プロジェクトを、R元年5月28日～R2年3月5日の期間に、通算54回開催した。(1年) ○入試制度の急な変更があったが、生徒も教員も冷静に受け止めて対応することができた。(2年) ● ポスターセッション用に作ったポスターは、発表用の資料としてはまだまだ改善すべき点が多い。(理数) ● 大学入学共通テストの全貌が見えない中、対策を始めるなければならない不安がある。(1・2年)	・ 新しい入試のことは保護者の立場でも気になっているので、情報収集と情報提供に関して適切な対応をお願いしたい。	・ 「主体的・対話的で深い学び」を通しての思考力・判断力・表現力の向上に向けて、授業研究をさらに進め、指導力の向上を図る。 ・ 各教科で文章や情報に関する読解力を育成するとともに、英語の4技能の育成を意識した授業を行う。
		⑤授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させるとともに、個に応じた指導により、生徒一人一人の学力向上を図る。	○授業第一主義を徹底するため、なるべく自習を発生させないように教務課主導で時間割変更を行い、授業環境を整える。(教務) ○予習、復習を徹底して授業に臨ませるとともに、授業第一主義の趣旨を十分理解させ、授業の中で考え学ぶ姿勢を維持させる。(理数) ○授業第一主義の趣旨を十分理解させ、予習、復習を徹底して授業に臨ませるとともに、課題に取り組ませる。(全学年) ○平日は150分以上、休日は4時間以上の家庭学習時間を習慣化しよう指導する。(1・2年) ○平日は270分以上、休日は8時間以上の家庭学習時間確保を指導する。(3年) ○学習時間調査や成績分析を行い、教科担任、部顧問、家庭との連携を密にし、面談等を通じた生活実態の把握に努め、効果的な学習について様々な指導を行う。(全学年) ○学習習慣の確立および集中学習による学力の向上を図るため「学習合宿」を行う。(3年)	・ 週時程数が増えて、時間割変更も大変になったが、なるべく自習を発生させないように時間割変更を行った。(教務) ・ 授業の中で深く考え、学ぶ姿勢はできつつあるが、家庭における学習はまだ十分とは言えない。(理数) ・ 学習時間調査による学習状況の把握と生徒への意識づけ。(1年) ・ 2学期期末考査前の学習時間調査(2年) 3教科147.6(1年同時期137.4) 5教科263.0(1年同時期259.9) ・ 年間を通して細やかな面談(必要に応じて三者面談)を行い、学習・生活の在り方やその改善を促した。後半体調を崩す者も多く目標の時間をクリアできなかった者もいたが、概ね良好な状況であった。また「学習合宿」の参加者は124名で、好評であり意義深いものとなった。(3年)	B	○先生方の協力のおかげで、授業変更ができない場合も授業の売り買いをすることにより、極力自習をすることなく授業を行うことができた。(教務) ○授業でのしっかりした理解が模試の好成績につながっている。(理数) ○学習時間は目標に達していないものの、2学期に入ると若干増加した。また「3年0学期」の意識づけにより、本格的に受験勉強に取り組む生徒も、少しずつ見られるようになってきた。(2年) ● 急な出張等により、授業当日も時間割変更をお願いすることがあり、担当者、先生方ともに負担がかかっている。(教務) ● 家庭学習が不十分な生徒を、如何にしたら取り組ませることができるか。(理数) ● 家庭学習の習慣化が徹底せず、学習時間が年間を通して増加しなかった。数学に対して意欲的に継続して取り組んでいる生徒が多いが、3教科全体のバランスが良くない。常に高い意識と向上心を持って、得点力の向上が図れるような指導が必要。家庭でのスマホ使用状況についても、細かく気を配りたい。(1年) ● 働き方改革の取組みを受け、来年度はこれまで以上に家庭学習の習慣づけが重要になることを周知する必要がある。(2年)	・ 塾に行く生徒が少ない分、学校で放課後講習などを行い、生徒の学力向上に努めている様子がみられる。 ・ 働き方改革や学級減に伴う教員の定数減の影響により、学力が低下しないかという心配がある。	・ 時間割変更担当者の負担軽減も視野に入れながら、55分授業の新しい日課を円滑に実施する。 ・ 働き方改革を進めながら学力向上を目指すために、生徒の主体的な学びを促す指導への転換を図る。 ・ 生徒の学習時間確保のために、タイムマネジメントを徹底させる。

		<p>⑥次期学習指導要領を見据え、総合的な探究の時間と多面的・総合的評価について研究・実践する。</p>	<p>○次期学習指導要領に対応する教育課程の情報収集し、教育課程編成や多面的・総合的評価への準備を進める。総合的な探究の時間の実施状況や他校の取組みを踏まえ、実施計画や運営について研究する。(教務)</p> <p>○総合的な探究の時間並びに海外研修旅行を活用し、次代のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。(1年)</p>	<p>・8月の新教育課程講習会や外部の研修会に参加した。現在、教育課程検討委員会を中心にカリキュラムを編成中である。(教務)</p> <p>・「総合的な探究の時間」は様々なテーマに対して、班ごとに主体性をもって取り組むことができた。(1年)</p>	B	<p>○教育課程検討委員会を中心に、新教育課程のカリキュラムの検討を行っている。(教務)</p> <p>○総合的な探究の時間と情報の授業により、全員が課題研究に取り組めた。プレゼンテーションも計画的に実施し、コミュニケーション能力の向上が図られた。(1年)</p> <p>●大学入試の情報が少ないために、カリキュラム編成作業が難航している。また、多面的・総合的評価については、他校の動向や義務教育での実施状況を参考に、職員も研修しながら本校の評価について検討しなければならない。(教務)</p>	<p>・授業の互観は、教師力の向上のためには効果的な取組みである。家庭学習は大切であるが、課題の与え方と時間の使い方が大きなカギを握っている。このあたりも中高連携の中でより良き方途を探っていきたい。探究型学習はあくまでも生徒が考える学習である。私の学校でも、先生方が教えすぎて生徒に考えさせていないのではないかと感じている。</p>	<p>・次期教育課程を編成し、県教育委員会との協議に入る。</p> <p>・次期学習指導要領への移行にあたり、多面的な観点別評価に関する研究・検討を進める。</p> <p>・総合的な探究の時間の指導に関して、教科横断的で組織的な指導体制の構築を進める。</p>
3	進路指導	<p>⑦広い視野と高い志を育成し、国公立大学や難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。</p>	<p>○1年の職業講話、2年の大学出張講義、全学年の進路講演会等を実施するとともに、医師体験、看護師体験、理学・作業療法士体験等に希望者を積極的に参加させる。(進路)</p> <p>○1年を対象に、筑波研究学園都市研修を実施する。(理数)</p> <p>○個別面談を通して、生徒一人ひとりの進路目標や適性を踏まえ、適切な文系・理系のコース選択の指導を行う。(1年)</p> <p>○総合やLHRの時間を活用した進路講演会や出張講義、オープンキャンパスへの参加などを通して、広い視野と高い志を育成する。(2年)</p> <p>○国公立大学合格者数170名以上、医学部医学科、難関大30名以上を目指して、個々の進路選択の可能性を広げる指導を行う。(3年)</p>	<p>・職業講話(9月11日)、大学出張講義(9月18日)、各学年進路講演会、医師体験(2名)、看護師体験(2名)、理学・作業療法士体験(理学3名・作業1名)(進路)</p> <p>・生徒が最も関心を寄せている研修だけに、個々の生徒が意欲的に各研究施設での研修に励んだ。(理数)</p> <p>・面談週間における年3回の二者面談と、文理分けの保護者への説明会を行った。「さくら連絡網」を使用して、文理分け締め切りの連絡を徹底した。(1年)</p> <p>・「総合的な学習の時間」において、思考力問題を5回と、論理言語力検定を実施した。(2年)</p> <p>・東北大学オープンキャンパスへの参加生徒231名(在籍比83.7%)。(2年)</p> <p>・センター試験の全国平均点が下がったことや、「安全志向」からか、出願の時点で医学部医学科、難関大の数値目標に届かなかった。(3年)</p>	B	<p>○どの行事も、生徒の進路意識高揚に大いに寄与したと思われる。(進路)</p> <p>○各研究施設で取り組んでいる研究がハイレベルなものであることを実感し、自分の将来をそこに重ねて意欲を高めている生徒が多く見られた。(理数)</p> <p>○進路講演会や出張講義を計画通りに実施するとともに、特に夏休みのオープンキャンパスへの参加を推奨し、様々な大学に数多くの生徒を参加させ、進路意識の高揚を図ることができた。(2年)</p> <p>●職員数の減少により、担当する職員の負担が年々増加している。1年の職業講話は、今年度分科会形式から全体講話形式に変更したが、2年の大学出張講義は、大学オープンキャンパス参加に代替える予定である。(進路)</p> <p>●クラス減により、文理の人数バランスが悪くなった。どちらか1クラスを多く編成しなければならない、課題は残る。(1年)</p> <p>●難関大・医学部出願者が22名にとどまり、30名以上の達成は不可能な状況。(進路)</p>	<p>・理数科の「筑波研究学園都市研修」で学んだ経験は、生徒に大きな刺激となっているようである。</p> <p>・働き方改革については、業務のスリム化・効率化を図りながら、教育水準の維持に努めてほしい。</p> <p>・60名ほどいるという難関大学志望者を最後まで伸ばしてほしい。</p> <p>・東北大学は合格が難しくなっている。関東や西日本勢とのレベルの差はどのようになっているか。</p>	<p>・大学入試改革の動向をとらえながら、生徒の進路目標実現に必要な力を身につけさせる。</p>
		<p>⑧盤石な学力を基盤としながら、グローバル化など変化の激しい時代に求められる資質・能力を育成する。</p>	<p>○個々の進路目標に沿った指導を行い、国公立大合格170名以上、難関大・医学部医学科合格30名以上を目指す。(進路)</p> <p>○1年の夏期休業中に、集中学習による学力の向上を図るため学習合宿を行う。(理数)</p> <p>○長期休業中の国語・数学・英語の講習、理数科では夏の学習合宿を実施し、実践的な学力の向上を図る。グローバルな視点を養い、将来への展望を持たせ、社会のリーダーとしての資質を育てる。(1年)</p> <p>○夏期休業中は3教科の講習、冬期休業中は、3教科と文系の地歴、理系・理数科の理科の講習を実施し、盤石な学力を育成する。(2年)</p>	<p>・国公立大学出願者は201名(全体の75%) (進路)</p> <p>・学習合宿は学年の指導・協力のもと、充実した内容にすることができた。OB講話では、東北大学大学院の先輩から貴重な話を聞くことができた。(理数)</p> <p>・東北大学オープンキャンパスへの1年の参加が224名あった。エンパワメントプログラムへの参加を推奨し、111名の希望が出てきている。(1年)</p> <p>・エンパワメントプログラムの参加生徒が106名あった。(2年)</p>	B	<p>○長時間の集中学習に取り組むことができた。OBの先輩からは日常の学習の大切さを説かれ、納得している生徒が多数いた。(理数)</p> <p>○オープンキャンパスへの早期の参加によって、高い意識が芽生えた。(1年)</p> <p>○講習の計画的な実施により、学力向上に資することができた。(2年)</p> <p>○エンパワメントプログラムでは、語学力は勿論のこと、自己肯定感を育成することができた。(2年)</p>	<p>・エンパワメントプログラムは、生徒によるアンケートでも評価が高いようである。グローバルな視点を養うために大変有益な内容であるので、引き続き取り組んでいただきたい。</p>	<p>・キャリア教育の観点から将来の進路目標に対する効果的な意識づけを行い、学力養成と車の両輪を成す進路指導を行う。</p> <p>・エンパワメントプログラムを円滑に実施し、生徒のグローバルな視点と自己肯定感の涵養に資する。</p>
		<p>⑨高大接続改革への万全な対応と、県内大学等との連携充実を図る。</p>	<p>○新しい大学入試制度の把握と、校内での実践を進めるため、各種研修会へ教員を積極的に派遣する。(進路)</p> <p>○山形大学理学部との連携事業として、1・2学年を対象に実験講座を実施する。(理数)</p> <p>○高大接続改革を見据え、手帳やe-ポートフォリオを活用して、生徒のキャリア育成に資するとともに、最新の改革動向を踏まえ、適切に対応する。(1・2年)</p>	<p>・授業研究・進路指導研究のための予備校研修に延べ7名が参加(5教科+進路指導)。他に、仙台、山形で開催された民間業者主催の研修会に、延べ27名が参加した。(進路)</p> <p>・1年は化学・物理・生物の3分野で、2年は化学で2講座開講していただき、事象に対する見方・考えなど、科学的思考の基本を学んだ。(理数)</p> <p>・手帳の活用や学期末における活動の集約を行った。(1年)</p> <p>・手帳を本校仕様にカスタマイズした。(2年)</p>	B	<p>○自然科学におけるものの見方、考え方が未熟な生徒が多かったが、この講座を通して確立することができた生徒が多く、自然科学への興味・関心を高めるのに寄与した。(理数)</p> <p>●「大学入学共通テスト」を始めとする新入試対応への研修会参加と、全職員への周知。(進路)</p> <p>●手帳の活用状況をうまく把握できなかった。(1年)</p> <p>●手帳を活用できない生徒が散見され、自己管理能力の育成に課題が残る。(2年)</p>	<p>・大学入試改革に向けて、組織的に取り組んでいることがみてとれる。特に「e-ポートフォリオ」や「手帳」の活用は評価できる。活用状況に対してさらに目を配り、効果を上げていただきたい。</p>	<p>・高等教育機関等との連携を一層強化しながらキャリア教育を充実させ、難関大学に挑戦する意欲を喚起する。</p> <p>・大学入試改革の動向をみながら、「e-ポートフォリオ」の効果的かつ着実な構築に取り組む。</p>
<p>⑩自治的な生徒会活動と活発な部活動を推進し、自他を尊重しながら高め合う集団づくりを促す。</p>	<p>○本校部活動方針に基づき、各種大会での上位入賞・全国大会出場30名以上を目指す。合理的・効果的・効率的な活動を追求し、学習との調和に努める。(生徒)</p> <p>○自主的・積極的な生徒会活動を実践させ、互いを尊重・協力する姿勢と自他の命を大切にすることを育てる。(生徒)</p> <p>○部活動や生徒会活動への積極的参加を促し、自主自律の精神を育てる。(1年)</p> <p>○部活動や生徒会活動では、積極的に中核となって活躍できるよう指導助言する。(2年)</p> <p>○最高学年として部活動や生徒会活動に積極的に責任を持って取り組ませ、自主自律の気概と逞しさを育てる。(3年)</p>	<p>・社会に貢献できる逞しいリーダーとなるべく、主体的な生徒会活動を行い、自主的・自律的行動を促し、学校祭等の生徒会行事に取り組んだ。(生徒)</p> <p>・インターハイには、陸上、ボクシング、レスリング、柔道、テニス、自転車競技に出場。その他、茨城国体に柔道、剣道、テニスが出場、全国選抜大会に弓道、全日本高校選手権バレー、都道府県対抗駅伝などに出場した。これから全国選抜大会に卓球、レスリングなどの出場予定もあり、全国大会に30名以上が出場できた。文化部も全国高総文祭に書道、文芸、新聞、囲碁(囲碁、将棋部門)が参加し、囲碁は全国選手権、全国将棋新人大会に出場、写真は国際写真サロンU30に2年連続で入選するなど、全国の舞台で「部活動は学校を元気にする」素晴らしい活躍であった。(生徒)</p> <p>・担任や部顧問の先生方の細やかな指導のもと、概ね有意義に活動している。(1年)</p> <p>・生徒会長選挙に3人が立候補。(2年)</p> <p>・新たな試みの中、「南高祭」を成功裡に収めたことにも代表されるように、意欲的に生徒会活動に取り組み、達成感に満ちたものとなった。(3年)</p>	A	<p>○南高祭の成功はチーム意識を向上させ、「誇り」を高め、自主的、積極的な生徒会活動によって責任と協調性が身についた。(生徒)</p> <p>○部活動の活躍が学校を元気にした。(生徒)</p> <p>○生徒会、各種委員会において、生徒会報「コバルト」を通じて広報しながら活動することができた。(生徒)</p> <p>○生徒会長に3名が立候補するなど、生徒会活動に主体的に参加する姿勢を構築できた。(2年)</p> <p>●本校の部活動方針のもと、各部顧問が熱心な指導に、より合理的かつ効果的に取り組んでいく必要がある。(生徒)</p>	<p>・本校生は目標をもって生活しており、礼儀正しい。</p> <p>・生徒たちは生徒会の活動や行事に主体的に取り組むことで、成長している様子がみられる。</p> <p>・「高いレベルでの文武両道」という本校の伝統を、今後とも大事にしてほしい。</p> <p>・中学生は本校に魅力を感じ、進学先として選択する者も多い。</p> <p>・生徒のアンケート回答で、「学校は勉強をさせたいのか、部活をさせたいのかははっきりしない。」という回答があったが、生徒が受け身になっているのではないか。学校の指導は丁寧に行われているので、生徒には主体性を持って取り組んでもらいたい。</p> <p>・学業も部活も高いレベルが求められ、大変な面もあるかもしれないが、恵まれた環境、チャレンジできる場所がいい。頑張ることが将来への力になる。一人ひとりに目を配って、自発性、個性を伸ばす教育を願いたい。</p>	<p>・「社会のリーダーの育成」という本校の目標実現に向けて、教職員間の連携・協働をより深めて生徒指導にあたる。</p> <p>・本校の運動部活動方針を周知し、関係者の理解と協力を得ながら、方針に基づいて、部活動に対してより合理的・効果的に取り組む。</p>		

4	生徒指導	<p>⑪学校全体でいじめ防止に取り組むとともに、読書やボランティア活動を通して自己肯定感を高め、道徳心や公共心を醸成する。</p>	<p>○「いじめ・非行をなくそう」県民運動を踏まえ、生徒会によるスローガン等を作成し、主体的に取り組ませる。(生徒) ○生徒会や部活動、クラス単位でボランティアに取り組み、地域や社会の中で交流する場を積極的に設け、奉仕の精神や道徳心を育む。(生徒) ○読書感想文・感想画コンクール、演劇教室を通して豊かな感性を育てる。(図書) ○面接週間やHR活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、早期に学校生活に適応できるよう配慮する。(1年) ○生徒の諸活動を把握し、面談や声がけなど細やかな指導を通して、より良い学校生活が送れるよう配慮する。(2・3年)</p>	<p>・宮城県丸森町での豪雨災害に対して、復興支援、募金活動を実施した。また、石巻への復興支援活動を継続して行い、その様子を学校祭で報告し、支援缶詰等の販売活動など、生徒全体への取組みへ還元することができた。(生徒) ・地元の町内会と連携を図り、学校周辺の除雪にもクラス単位で取り組んでいるが、今年については雪が少なく、依頼がない状態である。(生徒) ・いじめの認知から組織的な動き(小委員会等)で対応することができた。また、「学校におけるトラブルと法的対応について」の研修を行い、生徒や保護者への対応に役立てることができた。(生徒) ・「いじめ・非行をなくそう」スローガンを作成したものの、生徒会全体にあまり周知、活用できなかった。(生徒) ・読書感想文コンクール県審査で、1名が自由図書部門最優秀賞となり、全国コンクールでも優良賞を受賞した。読書感想画コンクール県審査で、1名が課題図書部門優良賞を受賞した。(図書) ・学年生徒課通信の発行。(1年) ・面接週間を活用した二者面談を3回、教科担当者会を2回実施した。(1・2年) ・年間を通じていじめ防止に取り組んだが、1件発生してしまったことは痛恨の極みであった。(3年) ・細やかに面談をしていても、明るく微笑んで「大丈夫です」という言葉から、いじめの認知が遅れ、慢性化(長期化)したケースがあったことは残念であった。(3年)</p>	B	<p>○部活動単位やクラス単位での積極的なボランティア活動は高く評価できる。震災支援だけでなく、他の災害に対しての支援も行うことができた。(生徒) ○いじめを察知した段階で組織的(小委員会)に対応することができた。(生徒) ○細やかな面談により、生徒と教員の信頼関係が構築できている。(1年) ○生徒の多くが担任に悩みを打ち明けることができるような信頼関係を構築できている。(2年) ●年3回実施している面談週間が、生徒理解と問題発生未然防止に大きな役割を担っているが、担任の多忙さと放課後の会議等で時間の確保に苦慮している。(1年) ●担任の業務量が多く、生徒理解に時間が割けない状況がしばしば見られる。(2年) ●生徒間の軽微ないじりや言動、教員からの叱責でもダメージが大きくなるケースがあり、生徒の育ちを踏まえた丁寧な指導が必要になっている。(3年)</p>	<p>・いじめについては、日常的な観察や情報収集を行い、少数であっても注視してサポートしていかなければならない。研修の成果等を生かして、引き続き組織としての対応をお願いしたい。 ・地域と学校が連携して、教育環境の改善に努めていくことが大切である。</p>	<p>・本校のいじめ防止基本方針に基づき、学校全体でいじめ根絶に取り組む。 ・いじめ防止やボランティア活動について、生徒の主体的な取組みをさらに促していく。 ・生徒の読書活動の活性化を目指し、図書館の活用について工夫を図る。 ・定期的な面談に加えて、生徒の小さな変化に速やかに対応するために、日常的に教職員間の情報共有を行う。</p>
		<p>⑫自己管理能力の養成と教育相談の充実により、生徒の心身の健康保持に努める。</p>	<p>○非行の根絶、いじめや盗難のない安心・安全な学校環境づくりのために、「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ち、自主的に自律した活動を奨励する。(生徒) ○様々な生徒に対し、養護教諭やSCと協力、連携しながら生徒指導を行う。(生徒) ○自己管理能力を高め、基本的な生活習慣を確立し、自他を尊重し高め合う集団を育成する。(1年) ○教育相談委員会や養護教諭、SCと協力しながら、疾病を持つ生徒や学校不適応・不登校の生徒に早期に対応し、心身の健康に関する問題の解決に努める。(保健、全学年)</p>	<p>・校内での盗難事件は0件で、交通事故件数は昨年度より減少した(22⇒7)。大きな事故には至っていないが、今後も0件を目指す。(生徒) ・各学年を中心に、相談委員会や養護教諭・SCの連携により、昨年と比較するとスクールカウンセリングを受けられる生徒や保護者が減少した。(保健) ・学校不適応の生徒が増加している。小・中学校からの環境が大きく変わったことに適応できない。(1年) ・教育相談委員会や養護教諭、SCの御協力により、昨今心身の脆弱さの目立つ生徒たちを支えていただいたことは心強かった。(3年)</p>	B	<p>○不登校生徒に対しては、学年を越えて組織的な対応ができ、生徒にとって最善の方策をとることができた。(1年) ●不登校傾向を示す生徒について、特定の教員に負担がかりすぎないように配慮しつつ、改善に向けて働きかける必要がある。(2年)</p>	<p>・不登校については個々のケースへの対応が不可欠であり、多くの労力を必要とするが、委員会組織を中心に、保護者や外部機関等との連携を図りながら、当該生徒への対応にあたっていただきたい。</p>	<p>・自己肯定感を高めるとともに、配慮が必要な生徒に対して適切な支援・指導を行うため、学年・生徒課・保健課の情報共有・連携を進める。 ・不適応傾向の生徒について、学校全体の共通理解の上に、スクールカウンセラーの協力を得ながら組織的対応を進める。 ・生徒の状況等を勘案しながら、必要に応じて「個別の支援計画」を作成し、組織的・計画的な支援にあたる。</p>
5	その他	<p>⑬事故の未然防止と事故発生時における的確な対応が取れるよう、安全教育・安全管理の取組みを推進する。</p>	<p>○学校事故の根絶、安全点検の徹底を図る。(保健) ○登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。(1年) ○様々な危険について注意を促し、事件・事故の未然防止に努める。特に交通事故については、格段の注意喚起を行う。(2年) ○面接週間やHRを活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、様々な危険についての自覚を持たせ、事件・事故の未然防止に努める。(3年)</p>	<p>・熱中症対策として、AED講習会や各部への熱中症計配布、また、保健だよりによる周知などによって大きな学校事故を防ぐことはできた。(保健) ・交通事故4件(2/14現在)。(1年) ・交通事故0件(2/7現在)。(2年)</p>	B	<p>○通学に慣れたこともあり、昨年度頻発した自転車運転中の交通事故が、現在のところ発生していない。(2年) ●地域から登下校中の自転車の運転マナーへの苦情があり、交通事故の加害者になり得る事態を防止する対策が必要。(1年)</p>	<p>・事故防止の観点から、安全指導については粘り強い取組みをお願いしたい。</p>	<p>・事故の未然防止と事故発生時に的確な対応が取れるよう安全教育・安全管理の取組を進める。 ・警察や家庭・地域と連携して交通安全指導を進める。</p>
		<p>⑭校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備を図る。</p>	<p>○ゴミを持ち込まない・持ち帰る指導を徹底し、安全で清潔な環境づくりを進める。(保健) ○毎日の清掃指導と点検、清掃強調週間による徹底を図る。(保健) ○事務室と連携を図りながら、校内諸施設・備品の整備・充実を図る。(総務) ○ゴミの持ち帰りや教室等の環境整備を徹底して、学習に集中できる清潔な環境づくりに努めさせる。(全学年)</p>	<p>・各学年での指導により、HR教室や廊下はきれいな状態を保つことができた。(保健) ・定期的な安全点検を徹底し、施設整備にあたった。(総務)</p>	B	<p>○懸案事項であった教室のクロスの破損箇所を、ホワイトボードに替えることができた。(総務) ○1年次よりも成長し、教室環境を整備しようとする意識が向上した。(2年)</p>	<p>・施設・設備については、アンケートを見ても生徒・保護者からの要望も多く、県の教育行政に働きかけて改善を進めてほしい。</p>	<p>・環境美化の意識をさらに高め、施設設備の維持・保全に努める。 ・県との連携の下、優先順位を明確にしながら、施設・設備の改善を進める。</p>
		<p>⑮積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>○本校HPの管理を適切に行う。(総務) ○学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会を開催し、連携を強化する。(全学年) ○学年通信の発行を通して生徒の学校生活や各種情報を提供し、保護者との連携を密にする。(全学年)</p>	<p>・文系・理系合同懇談会、理科単独懇談会の実施。(2年) ・クラス懇談会の実施、学年通信(初志)を11号発行。(1年) ・合同学級懇談会の実施、学年通信(駿翔)を14号発行。(2年)</p>	A	<p>○クラスや合同学級の懇談会を通じて、連携を強化することができた。(1・2年) ○学年通信や保護者にぜひとも届いてほしい情報については、さくら連絡網を活用し、直接保護者に届けることができた。(1・2年)</p>	<p>・保護者との連携や情報共有は、今後とも重要性が増すので、しっかり取り組んでほしい。</p>	<p>・本校HPやさくら連絡網を活用した情報発信に努め、本校の教育活動に対する理解を深化させる。 ・学校評価の結果をPDCAサイクルの中で確実に生かし、開かれた学校づくりに努める。</p>